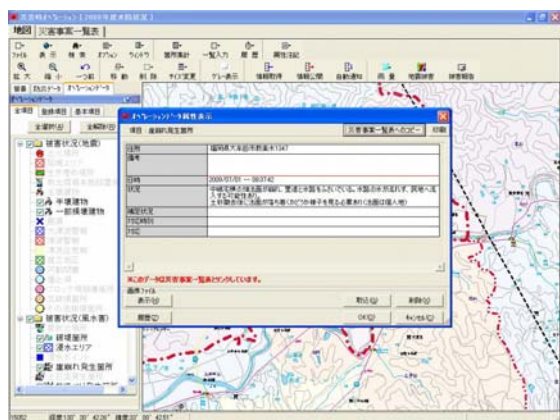
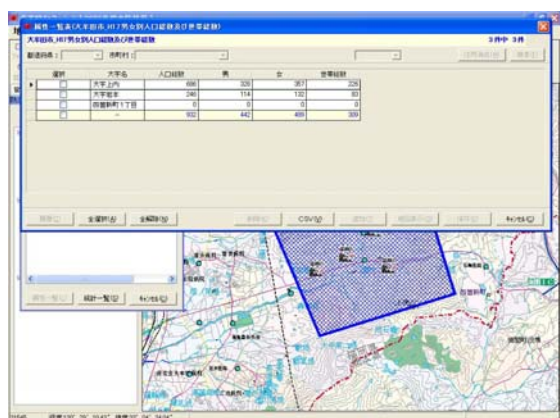
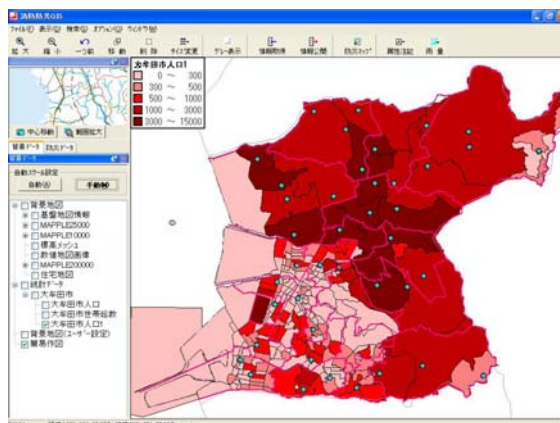


平成23年度消防防災GISサポーター事業報告書

自治体名	福岡県 大牟田市		
所属部課	消防本部 総務課 消防団係	役 職	係 長
氏 名	桑 畑 実		

活用内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統計データの活用 マニュアル171ページ 「政府統計の総合窓口」より国勢調査データをダウンロードし活用。 人口及び世帯数を地図上で色分けし、消防団の団員定数の検討や格納庫配置計画、車両配置計画の参考データとした。 ○ 避難勧告等の対象世帯数の検索 マニュアル206ページ 災害発生時等において、任意の範囲内の人口、世帯数を検索。 ○ 過去の災害時案のデータ管理 災害時オペレーション機能を活用し、市の水防本部での対応履歴をデータ化した。 ○ 消防団格納庫台帳の管理 防災関連データ管理機能を活用し、各消防団の格納庫の建設費や建築年月日等のデータを入力し台帳としての管理を行った。
------	---



<p>効 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統計データの活用 消防団活性化計画を作成する中で、これまで各管内の人口や世帯数については、表で表現していたが、統計データを活用し地図上で色分け表示することにより、GIS活用の利便性を理解していただいた。 ○ 災害時オペレーション機能 過去の災害時案を管理する上で、地図と連動して管理できるため、災害発生状況や各種対応の検証を行う場合資料等の作成が容易になった。 ○ 防災関連データ管理機能 防災関連各種施設の台帳管理がGIS上で行うことができ、担当内での情報共有が可能となった。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 起動時間短縮 PCのスペックにもよると思うが、GISの各種機能を起動する場合、非常に時間がかかりすぎる。 ○ 防災関連データ管理機能において、「情報公開」「情報取得」機能を利用する場合、属性情報がデフォルトの場合しか機能として利用できない。各自治体で属性を統一した場合にも利用可能とならないか。 ○ 国、県、市等、使用する自治体の立場でGISへの期待値が異なると思うが、自治体の立場からすると、具体的な活用目的を明確にしなければ普及は難しいと思われる。
<p>本GISに期待すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急時に対応するため、自治体間でもオペレーション機能の連携調査などの実施の検討 ○ 本システムが無償配布であることの利便性 ○ 各種災害訓練におけるGISの活用方法のマニュアル化 ○ 本サポーター事業において様々な情報共有が可能となっており、今後も技術向上と利用促進を図る